

知識を知恵に変える方法（その5）

- 【Ⅰ】差の情報によって意思決定する。
- 【Ⅱ】価値の方向とキーワードを目に見えるようにする。
- 【Ⅲ】落ちのない段階的な手順を創り出す。
- 【Ⅳ】「何を」の対象の構造・構成イメージを創り出す。
- 【Ⅴ】これを実現するための体制と手順を示す実施計画書を創り出す。

【Ⅳ】「何を」の対象の構造・構成イメージを創り出す。

自分あるいは全体が「何を」しようとしているのかを具体的にイメージできなければせっかくの作業も夢になってしまう。そこで「何を」を的確に表現する手法が重要となる。ここではFBSテクニックとWBSが連携した手法でイメージを創成する方法を紹介する。

FBS ; Function Breakdown Structure

WBS ; Work Breakdown Structure

WBSという言葉には対象物件の構造を指す場合と、なすべき作業をブレイクダウンしたものを指す2種類と、これら二つが結合したものの三種類がある。

これらの特質を充分わきまえて区分して使わないことが多く、混乱が生ずることがたまにある。ここではWBSはFBSの課題レベルを抽出したものと理解しておけばよい。

FBSテクニックは、適切なイメージの構成を創るための方法であり、従来になげなくやってきた考え方だが、目に見える形にすることで、「創造性はアイデアから」という概念より、「創造性は課題もしくはテーマから」という方が適当であると思うようになる。

次ページの図を参照しつつ以下の手順を理解されたい。

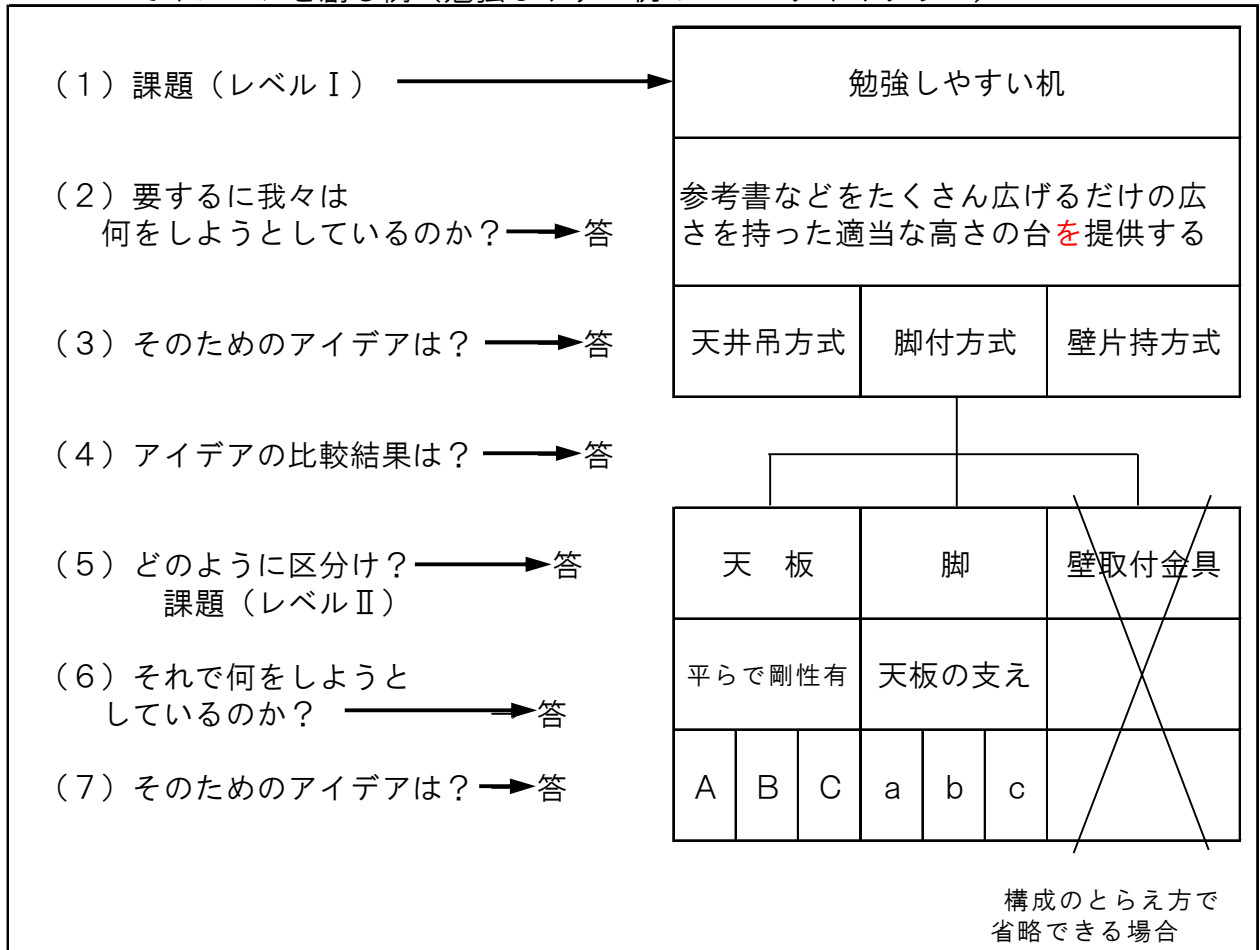
- ①課題を設定する。
- ②課題に対してKEY WORDを設定し機能表現を確定する。PMD法を使うとよい！
- ③KEY WORDの機能を実現するアイデア・イメージを創り出す。
- ④目的を実現するための、効果的で効率的なアイデア・イメージを選択する。
- ⑤選択されたアイデア・イメージをできるだけ数少ないコンポーネントで構成し次のレベルの課題とする。
- ⑥その課題についてKEY WORDの機能を実現するアイデア・イメージを創り出す。
- ⑦以上を全体のイメージが出来上がるまで繰り返す。（この結果を計画図と呼ぶ）

（補足）WBSはFBSの課題レベルを抽出したものの。

機能系統図（Function Tree）は機能レベルを抽出したものの。

選択したアイデアにより、次の課題レベル項目は変化する。

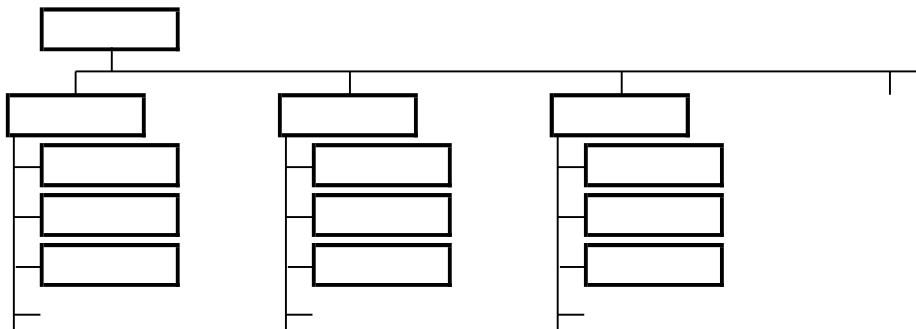
FBSでイメージを創る例（勉強しやすい机のFBSダイアグラム）



教 訓

勉強しやすい机のFBSダイアグラム → 創造性はアイデアよりテーマから

創造性の入り口となるテーマ・課題ツリー（構造）の例
WBS (Work Breakdown Structure)



(補足) 基本設計と詳細設計の違い

基本設計は上から下へ、詳細設計は下から上へ創造性が展開する。

要するに、物事を創造するためには、いかに論理的に目的と手段を上手く関連づけるか
である。

(以下次号；本テーマ最終号)